

## 地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護  
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護  
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 21年 1月 7日
事業所名	グループホーム レジデンシャルケア徳川町
ユニット名	2階
事業所番号	2370200475
記入者名	職名 施設長 氏名 武 早苗
連絡先電話番号	052-933-0888

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や移動のある場合は利用者へのダメージに繋がらないように、十分なケアを行えるように努めています。また、利用者の方が生活で不便を感じないように配慮をしています。		
<b>5.人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社後業務内容の細部までマニュアルによる説明をして内部研修を行なっています。改善点も正しい方法を伝授して、勉強会や外部研修への参加をして、知識を身につけるように努めています。		
20 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流をもち、互いのグループホームを訪れ、話し合いを行なっています。また、他の施設や地域の勉強会に参加した職員が、職員全員に向けての勉強会を開きサービスの質の向上に努めています。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	常に会議や面談等の話し合う機会を持ち、意見や不安、不満を表出できる環境を作っています。休憩場所が確保できずに心身が完全にリフレッシュができない時があります。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	不安や気付いた点、注意点等を職員全員で把握できるように努めて、ご利用者の為に頑張ってる仕事をしようと思えるような言葉をかけられ、定期的に面談を行なっています。また、外部研修、内部研修が行なわれ、適切なアドバイスがなされています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用の相談があつてから、本人や家族よりゆっくりと時間をかけて詳しく話をお聞きして、相手を尊重をして要望を把握できるように努めています。利用されてからも納得して安心していただけるように努めています。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談は随意受け付けています。グループホームの理念・生活等の説明をして不明点や質問に答えています。また、時間を設けて利用者の安心と家族の思いを受け止められるようにゆっくりと話のできる環境を整えています。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人と家族が必要としているサービスをよくお聞きし、必要に応じて臨機応変に対応できるように努めて、グループホーム以外のサービス利用の話を勧める場合もあります。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者の状況と家族の要望に沿い、すぐに利用を開始せず、何度か通っていただくサービスを提供させていただいたり、家族と一緒に泊まりたいと要望のある場合にも対応をさせていただいています。徐々に安心して過ごせる環境作りをしています。</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>毎日の生活の中で、利用者の歩んできた人生を伺い、共感をすることで信頼関係を築き、家庭的に安心して過ごしていただけるような環境を作り、一人ひとりの人格を尊重した関係を築いています。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族イベントや暮らしぶりを共有できるように十分に話し合いを行い、サービスに活かしています。家族も行事に参加ができるような環境を作り喜怒哀楽全てを持ち合わせられるように努めています。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と本人の関係がよりよいものになるように支援をして、家族との外出や外泊の際も安心できるように家族と職員が双方で情報の共有をしています。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしてきた友人との関係が途切れないように支援して、近隣の方の来訪も歓迎をしています。また、通いなれた美容院などへも引き続き通えるように支援をしています。		
31 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士助け合える温かみのある暮らしを提供できるように努めて、リハビリ体操やレクリエーションを通じて、利用者同士の係わり合いを持っていただけるようにコミュニケーションを図っています。		
32 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	手紙の交換などを行い、家族との良好な関係を継続できるようなお付き合いをして、その後も相談や必要な支援もさせていただいています。時には訪問をしてくださる方もいらっしゃいます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の希望や意向を大切にコミュニケーションを密にとり、希望や意向をお聞きしています。困難な状況が解除されない場合は本人の立場に立って支援をしています。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人や家族より馴染みの暮らしや好きな食べ物、服装、色等様々なことをお聞きして、安心をして笑顔のある生活をしていただける様に努めています。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>一人ひとりの過ごし方について職員全員で考え、カンファレンスやミーティングで話し合いを行い、体調の観察をして、家事やレクリエーションを日々の中で取り入れ、個々に合ったケアを行い、本人のペースに合わせ、尊重をしています。</p>	
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者や家族の意向や希望をお聞きして、より良く暮らせるように職員間で日々のカンファレンスの中で話し合い、できない事よりもできる事の可能性を重要視して介護計画を作成し、実施しています。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>状態の変化により介護計画を見直し、日々のカンファレンスで話し合いを行なっています。現状に合う計画を3ヶ月毎に見直しを行っています。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録やケアプランチェック表、日々のカンファレンスにも記録を残し、介護計画に反映させる為に具体的な情報の共有ができるようにコミュニケーションも密にとっています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要時には迅速に対応ができるように柔軟な支援をしている。外部の方によるレクリエーションは皆様が楽しめるように環境を作り努めています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方による訪問や消防署の方に協力していただき、消防訓練を行ったり、警察関係者の方にグループホームの認知をしていただいています。音楽、手品、落語、フラダンス、コンサート、社交ダンス等地域の方が援助して下さっています。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、訪問看護、鍼灸マッサージなどの利用できるように支援をしています。また、他の施設の方ともコミュニケーションを取り、より良いサービス提供をする為の意見交換をしています。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターへ出向き、地域住民の方へ向け認知症をテーマにした講義をしています。また、グループホームを認知していただいています。運営推進会議へも参加していただき、様々な情報を職員や家族へも発信していただいています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿って適切な医療を受けられるように支援をしています。体調の変化がある時には希望とするかかりつけ医と連携をとっています。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	2週間に一度医師の診察を受けています。一人ひとり症状別に最良の対応を指導していただいています。看護師、医師共に相談にのっていただき、迅速なアドバイスをしてくださっています。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	2週間に一度医師の診察を受けるとともに看護師も同行をしていただき、1週間に一度の看護師の訪問があります。24時間支援をくださり、日々の健康管理を行っていただいています。また、歯科や鍼灸の先生にも毎週支援していただいています。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の運びとなった時は、入院先への情報の提供を速やかに行ない、入院後も早期退院ができるように情報交換を行っています。また、協力医療機関より適切な判断をしていただいています。退院後もスムーズに診察ができるようかかりつけ医とも密に連絡をとれるよう努めています。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた過ごし方のかかりつけ医より家族との話し合いの場を設けて、情報を共有し、方針を定めて家族と事業所が互いに納得した対応ができるように努めています。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合、可能なこと、困難なこと、不安なことを職員全体で話し合い、情報を共有をして、「出来ること、出来ないこと」を明確にして医師との連絡を密にとり常に相談、指示が受けられるような体制を整えています。医師の診察や看護師の訪問も随時していただける体制を整えています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>他の居所へ移り住む場合は本人や家族が不安や心配が募らないように配慮をして、移り住む場所への情報交換を行い、できる限りの対応をしています。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>介護記録は常に錠のかかる所へ保管をしてプライバシーを大切に、着替えをする際も個室でカーテンを閉める等の対応をしています。個々の尊厳に基づいた声掛けを大切にしています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>できうる限り希望に沿うように、積極的にコミュニケーションを取り、思いや希望を表出できるように対応をしています。また、安心して暮らせるように本人の気持ちを大切にしています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者のペースを確認し、本人を尊重し、個々の生活パターンを優先するように心掛けています。また、散歩や床屋、買物等個別リハビリも希望に沿える様に支援をして、毎日が快適に過ごすことができるように取り組んでいます。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>美容院や床屋は、慣れ親しんだお店に通っている方への支援をしています。訪問美容院等も希望をする方は利用しています。本人の希望に沿うように整髪して、好みの服装を着用できるように本人の意思を尊重をして支援をしています。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		<p>活き活きとした生活を送っていただき、楽しみを多く過ごしていただきたいので、引き続き提供をしていきたいです。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物へ行った際に所持を出来るように持参していただいたり、好みの雑誌の購入や散歩へ出かけて喫茶店へお付き合いをするなど希望に答えられる様にしています。		利用者や家族の方より感謝をしてくださり、引き続き外出機会を作って行きたいです。
61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	必要とされる時は一人ひとり個別で外出の援助を行い、利用者のストレスが溜まらないように配慮をしています。また、希望に沿える様に外出をして、散歩や買物等へも日常的に出かけています。		外出機会を更に増やして引き続き多くの楽しみの提供をしていきたいです。
62	普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	多くの楽しみが提供できるように予め計画を立てた芝居見学やお花見、紅葉狩り、近隣の公共の施設、公園、喫茶店等へ出かけて、家族も一緒に参加できる機会を作っています。		
63	電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者より家族への電話の希望のある場合は、支援をしています。また、家族や親類よりかかってきた時には取り次いでいます。手紙のやり取りもしています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居心地の良い環境を作ることを心掛けて訪問の方とも積極的にコミュニケーションをとり、一緒に体操やレクリエーション等へも楽しんで過ごしていただけるような環境を作っています。また、共用スペースやお部屋をお好きなところで過ごしていただいています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で身体拘束に関する勉強会をして身体拘束をしないケアを十分に理解をして、利用者が安心していただけるように努めています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の錠はかけておりません。ご自由にお部屋を 行き来できるようになっています。玄関は通りに 面しているので、安全性を考えて錠をかけていま す。		
67 利用者の安全確認  職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に目配りをして安全に配慮して居室で過ごされ たい方へもこまめに訪問をして体調不良の方への 不安を排除できるような対応、安全と安静を保て るような環境を作り努めています。		
68 注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に合わせて理解できるように対 応をしています。つめ切りをご自分で管理をして いるかたもみえて、危険な行為がないように注意 を払っています。はさみや針等の保管場所を決め て、管理をしています。		
69 事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故の予防に日々の観察で、些細な気付きから、 大きな事故へ誘因しないようにヒヤリ・ハットを 活用して報告をしています。万が一起こってし まった事故へも再発を防止する取り組みをしてい ます。		
70 急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルに沿って訓練や勉強会を行い、急変時 や事故の発生の際は連絡を取れる体制を整えてい ます。かかりつけ医とも24時間連絡をとり、指示 を受けられる体制を整えています。		
71 災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防の方の指示の下避難訓練を実施し、職員全体 が消火器などの位置を把握しています。災害時の 連絡先を熟知して初期消火の対応マニュアルがあ り、地域の自治会や消防団の方とも密接な関係を 築いています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		引き続き、食事や運動で改善できるようにしたいと思えます。
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症による対策・予防等マニュアルがあり、毎日、手洗いうがいを勤めて、ドクターエアタオルを使用して手指の清潔に努めています。、面会の方へも手指の消毒を勤めています。インフルエンザの予防接種を施行しています。毎日換気を定期的に行なっています。		
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具(まな板や包丁等)とその周囲の消毒、漂白を1週間に3回実施しています。賞味期限、消費期限を厳守して冷蔵庫内の整理と消毒をしています。食中毒等の対策で、毎食全ての調理品を冷凍庫で保管をして万が一の際原因を確かめる事ができるように努めています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の出入り口には親しみやすいように工夫をして手作りの置物や季節の壁飾り、花などを飾ってあります。周辺も木や花が植えてあり掃除も丁寧に行なっています。訪問のしやすい環境の工夫をしています。		
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所に季節感のある飾り付けをして、花や観葉植物もいつでも鑑賞できるように工夫をしています。イベントや日々の生活の写真を展示しています。不快な音をさせないように工夫をして、臭いにはアロマランプを焚き、リラックス効果を高め、ゆったりと過ごせる環境を作っています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談笑したり、クイズをしたり、一人でもTVを観られるよう安心して過ごすことができるように工夫をしています。リビングでのソファや畳、食堂でのテーブル席があり、常時好きな場所へ過ごすことができる環境を提供しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室には家族の写真やご自身の好きだったもの、ご自身の作品を居室へ持ち込み居心地の良い環境作りを支援して、清潔に過ごせるように工夫しています。		
84	換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	共同スペースは1日2回の換気に努め、居室は毎日の掃除と共に空気の入替えを行なっています。温度も温めすぎず、冷やしすぎず、適温を保つように努めています。湿度も加湿器の加減をしています。アロマランプを1日3回焚いてリラックスのできる環境へと配慮をしています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	あらゆる生活の場面において利用者の自立を促すように支援をして、利用者に合った福祉用具を使用して、壁には手すりが備え付けてあります。また、動線に歩行をする際に障害物がないように工夫をしています。		
86	わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室に表札を掲げ、湯や廁等もわかりやすいように掲げています。一人ひとりの自尊心を傷つけない様に言葉をかけて、混乱や不安がある場合は常時対応が出来るように努めています。		
87	建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	利用者と共に洗濯物を干して、庭に畑を作り、ベランダを活用してプランタに野菜、花など植えています。収穫を利用者と共に楽しみ、鑑賞をしています。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家庭的な雰囲気を目指し、ご利用者様の尊厳を大切に、個別援助に努めています。常に目配り、気配り、心配りを怠らず、焦らず、慌てずゆっくりと穏やかな姿勢で接しています。毎日、リハビリ体操や廊下歩行で身体機能の低下を防止するように努めています。一人ひとりの能力に応じて家事以外にも塗り絵やパズル、計算・漢字ドリル、写経、音読、生け花、歌等職員と共に会話をしながら楽しみながら取り組んでいます。イベントとして音楽療法やバイオリンなどのコンサート、犬の訓練士の方によりアニマルセラピーを行い、抱いたり、触ったり、餌をあげたりと皆様とても喜んでくださいます。その他、落語や漫談、フラダンスや社交ダンスを地域の方々が提供して下さいます。誕生会や季節の行事ごとを大切にしています。お食事好みのものを提供できるように心掛け、季節感のあるお食事の提供をさせていただいています。また、日々美味しいといただけるように努めています。何事も利用者の方を第一に思い、尊重をして生き活きとした生活を送れるように日々沢山の会話をし、スキンシップを取り、支援をしています。